

北斗市の外国語教育の取り組み

北斗市では、子どもたちの「実践的な学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育を充実させるため、全ての小中学校と教育委員会が一丸となって取り組んでいます。そのうち北斗市教頭会では、各校教頭が4つのプロジェクトチーム（学力向上・地域連携・外国語・ICT）に所属し、子どもたちの健やかな成長に向けた教育活動を推進しています。

そのうちの1つ、外国語プロジェクトチームの取り組みの中から、茂辺地小中学校の教育活動について紹介します。

茂辺地小中学校は、小学1年生から小学3年生まで9年間を見据え、それぞれの学年に応じたCan Do リストを作成し、その目標達成に向けて取り組んでいます。英語特設授業では、小学生と中学生がペアになるなど、共に学んでいます。

小学校の朝活動では、週2回ALTと「朝英語」を行っています。この朝英語では、「今日は何月何日何曜日?」「天気は?」「季節は?」などの英会話を行い、月ごとにテーマを決めて学んでいます（最近ではDo you have...）。茂辺地小中学校の子どもたちは、小学1年生からALTと一緒に学び、遊んできましたから、外国人と英語で会話することに抵抗がありませんし、英語を耳にする機会も多いので、聞き慣れています。

中学校では、ふるさと学習と関連付けた「英語対話活動」を行っています。以前は、地域のPR活動として、リーフレットを作成し、外国人観光客と英語でコミュニケーションを図りながら配布していたのですが、



英会話で行うクリスマス行事

新型コロナウイルスの影響で活動ができなくなり、今年度は「PRビデオ」を作成しました。地域のお店や神社、名所などに行き英語で紹介するというものです。試行錯誤しながらでしたが、とても良いPRビデオを作ることができ、保護者に披露することもできました。

小中学校ともに、いろいろな検定への積極的な挑戦も促していますが、英語検定では、今年度4級を取得した小学生がいます。また、中学3年生は全員がCEFR A1レベル（英検3級）以上の認定を受けるなどの成果も出ています。

今回は、茂辺地小中学校の取り組みの一部を紹介しましたが、北斗市内の学校では、さまざまな英語力向上の取り組みを推進し、また、情報共有なども行っています。

今後も楽しく英語を学び、さらに検定等にも挑戦するなど、意欲と英語力の向上に努めていきたいと考えています。

（北斗市教頭会 茂辺地小中学校

教頭 畑 大輔）

がん教育

生活習慣と健康について考える

令和4年1月25日、6年生対象にがん教育の一環で講演会を実施しました。

講師に「函館・性と薬物を考える会」から、湯の川女性クリニックの小葉松洋子院長先生を招き、保健体育で扱う生活習慣病予防の内容を掘り下げ、わかりやすく説明していただきました。

普段口にしていないエナジードリンクのカフェイン中毒や死亡事故のお話は、児童にも身近に感じた内容でした。

また、タバコの影響については、医師の立場から児童に映像を見せながら、具体的にお話してくださいましたので、教科書の内容に加えて、より理解を深めることができました。



湯の川女性クリニック 小葉松洋子先生の講演の様子

児童の感想より

・妊娠中にタバコを吸うと普通の赤ちゃんより体がやせていることや生まれてきた子の集中力に影響することがわかった。
・タバコやお酒ではストレスが消せないことを学んだ。先生が「タバコを吸い始めないことは誰にでもできる」と言ったとき確かにそうだなと思った。

・タバコは、煙ではなく、ニコチンという薬物を吸っていることがわかった。ニコチンは30分で体からなくなり、また吸いたくなくなってしまふということがわかった。その連続がガンにつながるの、最初から吸わないようにしようと思う。
・親がお酒を飲むのを見て、時々心配だった。がんについて教えてもらって、帰ったらすぐに親に教えたい。

コロナ禍でこのような講演会が難しい中、貴重なお話を聞くことができました。児童の感想が行動化につながるよう引き続き健康教育を推進していきたいと思っています。

（北斗市学校保健会 上磯小学校

養護教諭 高橋 里美）